

平成 30 年度学園祭総合開会式挨拶

地域の皆様、保護者の皆様、本日はお足元の悪い中ようこそおいで下さいました。本日は日頃の附中生の研鑽の成果をごゆっくりお楽しみいただければと存じます。

さて諸君。学園祭のテーマは「ともに」です。私はこのテーマを耳にしたとき、とても難しいテーマを選んだなあ、と思いました。しかし諸君はこのテーマをちっとも深めてくれない。「ともに」ということがどうにも分からない、と行って「哲学ルーム」を訪ねる生徒も一人もいない。どうやら諸君は分かった気にいるらしい。

でもこうやってみんなで学園祭をいっしょに創っているのだから、「ともに」があることは明らかじゃないか。そう考えているかもしれないね。本当にそうだろうか。じゃあ、みんなが抱えている、どうしようもなく寂しい気持ちや孤独感はどうなるんだろう。なくならはしない。では「ともに」とはどういうことだろう。

学園祭をやろうなんていうのは人間だけだ。目的を定め、役割を定めていっしょにやろうなんていうのは人間だけだ。自然の存在はそのままのあり方で、いつも「ともに」ある。でも人間も「自然の存在」だ。どうもこのあたりにヒントがありそうだ。

「ともに」を考えること、これも「人間を学ぶ」と言うことだ。

諸君はこの学園祭を通じて「ともに」を身体で感じるとともに、それを言葉にして考えて欲しい。人間は身体的自然的存在であると「ともに」精神的言語的存在である。復唱してみようか。

生徒：「人間は身体的自然的存在であると「ともに」精神的言語的存在である。」

「分かった気になるな」。終わります。